

ホットな消費者 News

消費者問題の事例対処法を解説します。

強引な訪問買い取り業者にご注意

買い取り業者から「何でも買い取ります」と電話があり、洋服の訪問買い取りを依頼した。後日、訪問してきた業者が「貴金属はないか」と強く言ってきたため、怖くなり指輪やネックレスを渡してしまった。その後、ほかのものを探している間に、勝手に買取書に記入され、捺印までさせられ、買い取り代として2万円を置いて帰った。このような場合、契約は無効にできるのか？

対処法・アドバイス

- 事前に「不要なものはないか、何でも買い取る」と電話がかかってくるケースが多いですが、目的は貴金属の可能性があります。安易に来訪を了承しないようにしましょう。
- 訪問購入は契約書面を受け取った日から8日以内ならクーリング・オフできる場合があります、クーリング・オフ期間中は引き渡しを拒むこともできます。困ったときは、お近くの消費生活センターなどにご相談ください。

お問い合わせ

消費者ホットライン ☎ 188 久留米市消費生活センター ☎ 0942-30-7700 福岡県警察 ☎ 110 または # 9110

広川文芸

ひろかわ短歌会



気まぐれな関税男うとましく妻の供してワラビ狩り行く	蓮子 住雄
誕生花の銀杏の言葉は長寿なり母の年齢まで生きんと思う	姫野 洋子
さはさと記憶の風が吹きぬける里の若葉よちははのこゑ	青木佳代子
勇ましき少女剣士の孫娘その出で立ちにしばし見惚れる	山崎 信
我老いて身体の痛み思い知るまぶたに浮かぶ母の姿よ	有吉 冴子
天上の茶畑脇の山ざくら 訪なう人なく花みだれ舞う	原 徹
新緑の木々の芽それぞれ色染めて農機の音が大地震わす	結束 節子
子どもの日ちかき夏日の車窓に今年はじめての鯉のぼり見る	高橋 和子
たぶん風が運んだのだらう見覚えのない雑念が庭にころがる	山下 整子
池の端の柳の影は気まぐれな風に揺さぶられ地面に遊ぶ	外山ゆうこ
パンジーのはらりからりと黄を落としサクラ愛でいる忙の頃なり	北川 順子
吹く風にそよりと靡く藤の房香りとともにミツバチも飛ぶ	山下 聖子
大東寺こころ静かに筆を持ち般若波羅蜜多写経に对付	鹿田 恵
空からの桜ひとひら降りてきぬ鳥のしわざか幸せの兆し	溝田 幸
花つつじ色とりどりに咲き誇り春の香りが心と和ます	横山 方子

ふるさと 再発見

広川町郷土史研究会

広川町にある巨樹・珍樹 その 10

石人山古墳参道のヤマザクラ

石人山古墳の参道沿いには、ヤマザクラの古樹が10株ほど聳ももえています。その中で一番大きいものは、1株が5幹に分かれて枝を張っています。

樹高	約25・0メートル
幹周	2・55メートル
幹1	0・6メートル
幹2	0・6メートル
幹3	0・6メートル
幹4	0・85メートル
幹5	1・0メートル

※このような場合は、5つの合計に0・7を掛けた数字を幹周とします。

推定樹齢 約150年
いずれも同じ時に植栽されたと考えられ、すでに樹幹には空洞が生じたり、テングス病にかかっているものも見受けられます。

古墳の墳丘部には、大正11年（1922年）ごろに、陸軍によって高射砲陣地が構築されましたが、その際に樹木が伐採されたようです。幸運にも参道沿いのヤマザクラは伐採を免れて、今日見る大樹になったものと考えています。



▲吉常区地内のヤマザクラ
貫禄のあるヤマザクラだが、そばまで近寄らないと、全容を見ることが出来ない。

吉常区地内にもヤマザクラの大樹が

各地に〇〇の一本桜と呼ばれる名木がありますが、この樹にもふさわしい名称を与えたいものです。

樹高	約25・0メートル
幹周	2・8メートル
推定樹齢	約150年

当該木は単幹で、見ごたえのある樹ですが、写真左の枝の1つには、枯れ込みが見受けられました。

樹皮からうかがうと、すでに老境の域に達しているようで、気のせいかわ花びらも、小さく見えました。

すぐそばまで近寄らないと全容は見えず、残念ながら遠くからは、まったく望めない地味な存在です。

巨木の定義

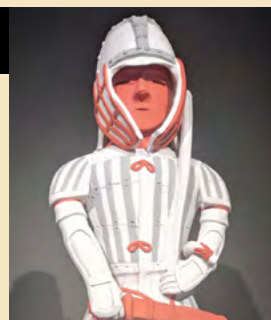
環境省が示す定義は、地上1・3メートルでの幹周が、3・0メートル以上となっています。

それに従うと厳密には、これまで紹介した中では、長延区内のシオジ（幹周5・7メートル）以外は、該当しないこととなります。必ずしも定義にこだわらず、町内で特筆できる樹木を取り上げていることを、ご理解ください。

広川町古墳資料館だより

国宝「けいこう挂甲の武人」の埴輪が、粘土を窯に入れて高温で焼いた時の、茶色のままでなく、白・グレー・赤など、鮮やかに色づけされていたことが、東京国立博物館の詳細な調査で判明しました。今回の特別展「はにわはにわ」では、

装飾されたレプリカの「挂甲の武人」も展示されていました。広川町の、石人山古墳の石棺や石人も赤色に塗られていたようです。古墳時代では、色づけをする行為に祭りや神事的な意味があったことがわかります。



▲色づけされた武人